

第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和5年6月29日（木）15:30～17:00

場所：住吉高等学校 会議室

出席者

○学校運営協議委員

大塚耕司 委員長、中西洋 副委員長、森田英嗣 委員、森本哲弘 委員、篠原宏明 委員、山崎大義 委員

○学校側

中山（校長）、久堀（教頭）、田仲（事務長）稲木（首席）、内田（首席）、西本（国際文化科長）、大門（総合科学科長）、山城（教務部長）、三石（進路指導部長）、杉本（生活指導部長）、松本（保健部長）、山田（総務部長）、中川（国際部長）、植田（自治会主担）、左（教育相談）、辻（記録担当）

1. 学校長挨拶

2. 委員紹介、委員長挨拶

3. 議題：今年度の本校の取組みについて

（1）本年度の学校経営計画について（校長より）

国際科学高校としての強みを生かし、様々な活動に取り組みコロナ前の住吉高校へと戻すことをめざす。

（2）総合科学科の取組みについて（総合科学科長より）

・SSH事業について

校内外を取り込んだ活動と海外を視野に入れた活動と卒業生との連携をとることで第4期に向けて再挑戦する。活動評価に関しては学校運営協議会毎に卒業生の論文本数やその後の進路を追いかけることで評価していく。

（3）国際文化科の取組みについて（国際文化科長より）

昨年3月に4年ぶりに宿泊を伴う英語合宿ができた。また、インターナショナルフェスティバルでは暗唱大会部門で本校生徒が優勝した。ここ数年準優勝や優勝など高い成績を収めており、引き続き成果を残していきたいと考える。

授業外での取り組みとしては、各言語に特化した Super Korean、Super English や、TOEIC 講習を実施することで能力を養っている。

（4）国際部の取組みについて（国際部長より）

・国際交流行事について

住吉らしい活動を盛り上げていくことを目指す。今年度は4月19日に41名の生徒が台湾訪問を実施し、楽しそうな様子だった。コロナ禍においてはオンラインでの実施だったが、今年度から対面での国際交流行事、語学研修等を順次再開予定。今後の課題としては、円安や社会情勢の変化による旅費の高騰があり、行先や活動内容を変更することで活動を進めていく。また、コロナ禍によって活動がここ数年実施

できていなかったため、活動の実態を知っている教員が少ない。生徒が国際高校を感じられる雰囲気醸成に力を入れたいと考える。

- ・ユネスコスクール活動等について

プレゼンを実施し、LETS（国際関係学科設置校）主催の合同発表会での発表を目標とする。

（５）教務部の取組みについて（教務部長より）

- ・指導要領の変更に伴う３観点の実施

評価基準の見直しなどの試行錯誤を重ねながら取り組んでいる。

- ・校務処理システムの導入

以前に比べて効率的だが、入力ミスに気づきにくい等の問題点もある。そのためミスをどのように予防・発見するかが今後の課題として挙げられる。

- ・高校入試について

電子出願などの電子化への対応については今後の課題として検討中。

（６）進路指導結果及び今年度の取組みや目標（進路指導主事より）

- ・進路指導結果

国公立大学の合格者が増加し、76名の生徒が合格した。合格者数増加の要因としては、前中後期での出願数の増加が考えられる。

- ・今年度の取組みや目標

今年度の課題としては学力低下防止と学習習慣の確立が挙げられ、この問題に対する具体的な取り組みとして、1年生保護者への進路講演会の実施や、冬に同窓生による講演会を実施することで生徒に職業観の養成や、進路実現へのやる気を引き出す。

（７）生活指導部（生活指導主事より）

- ・遅刻指導

昨年度から「生活習慣改善ワークシート」を用いた遅刻指導を実施。それに伴い生徒と多くの教員との関わりが増えたことで、生徒とのコミュニケーションの増加や、生徒が抱える日常生活での困りを把握することにつながった。その一方で、遅刻件数の増加が課題。現在の指導（入室許可証の記入や入室対応）の徹底と、指導の重要性を担任会などで共有していく。

- ・挨拶・マナー指導

教員からの積極的な挨拶や授業での挨拶を呼び掛け、挨拶意識向上へ向けた意識調査とフィードバックを職員会議において実施した。挨拶の意義への理解は8割以上の教員が肯定的回答を示しているが、教員・生徒ともに互いに挨拶することができていないといった認識も多く、実践に結びついていないことがわかった。今後、生徒のロールモデルとして認識を持ち挨拶を実施するように働きかけ、定期的に意識調査を行い、推移を追いかけることで適宜対応していく。

生徒への働きかけとして、部活毎に部活内外へ向けた挨拶目標を設定。その結果、生徒から元気さや、誠実さ等といった様々な観点からの目標が提出され、生徒が挨拶に対して多様な認識を持っていることが確認できた。年度終わりには自己評価を実施する予定。

(7) その他（教頭より）

- ・教育相談の独立・組織化。

生徒1人1人に合わせたフォローを実施できるようになった。

- ・住高ラウンジ

昼食をとる場所（行き場がない）生徒に対して、安心・安全な空間の提供。

4. 質疑・協議（●質問・意見 →回答）

●教室へ向かえない子供や目標へ到達できない子供に対して、別室やオンラインでの単位認定や、挨拶と遅刻指導を一体化するなどの取り組みを用いた新しい挑戦が必要とされるのではないかな。

●遅刻数と学力・進学実績との相関関係や、遅刻が少なかった卒業生の進路との相関関係を把握することができればノウハウとして蓄積でき、1・2年生の指導に対しても活用できるのでは。

●体育祭のリレーでは、陸上競技部などのルールを順守してほしい。

→協議ルールや、運営を生徒の主体性に任せていることについて見直す。

●クラブ活動において成績を残して欲しい。部活動に関する指導を強化して欲しい。OB・OGなどの外部の講師などを活用してみてもどうか。

→働き方改革などで限られた時間で活動しており、活動と働き方のバランスを模索しており、試行錯誤の段階にある。

●行事予定や模試の締め切りなどについて子どもから連絡がない。子どもを介さず行事予定、模試の申込期限などの共有方法を考えて欲しい。

→模試の締め切りに関しては、1か月前には配布し、締め切り3日前に再度連絡するようにはしている。学校行事に関しては紙での配布だけでなく、「さくら連絡網」を通じても配信している。

●学校として国公立志向に寄ってしまうのはどうなのか。

→国公立志向の意図はなく、早くから進路を決定してしまうと受験科目を絞りすぎる傾向にあり、自分の力を伸ばす機会を失うことがあるため、自分の力を最大限伸ばすために頑張ってもらいたいと考えている。

5. 議決内容

- ・令和5年度の学校経営計画について承認
- ・スクールポリシー案について（助言に基づき後日一部改訂）
- ・R6年度使用教科書一覧について

6. 校長謝辞

7. 今後の学校運営協議会の開催予定について

第2回 令和5年 10月26日（木）15時30分～17時

第3回 令和6年 2月22日（木）15時30分～17時